



様式第12号(第14条関係)

令和6年6月24日

令和5年度持続可能な地域づくり団体支援寄附金実績報告書

鳥取県知事 平井 伸治 様

住 所 鳥取県倉吉市福庭337
団体名 NPO法人かほくスポーツクラブ
代表者職・氏名 代表 加藤 康彦

令和5年度中に交付を受けた寄附金について、下記のとおり活用して事業を実施しましたので、持続可能な地域づくり団体支援寄附金交付要綱第14条第1項の規定により、関係書類を添えて報告します。

記

1 寄附金受入額 令和5年度合計408,000円

2 添付書類

- (1) 寄附金活用実績報告書<様式第12号の2>
- (2) 寄附金活用収支決算書<様式第12号の3>
- (3) その他参考資料

様式第12号の2 (第14条関係)

令和5年度寄附金活用実績報告書

事業名	少年少女バレーボール教室及びスポ少バレー部活動支援事業
実施期間	令和5年6月1日～令和5年12月20日
事業内容 ※対象者の範囲や人数、実施方法等を具体的に記入。	<p><第19回少年少女バレーボール教室> と き 令和5年12月10日(日) 9:00～16:30 と ころ 三朝町総合スポーツセンター (鳥取県東伯郡三朝町大字山田214-1) 講 師 藤田幸光さん(元全日本選手) 八子大輔さん(元JTサンダース、元全日本選手) 参加者 県内小学生91人 実施方法・指導内容 一日をとおし、午前中は準備運動、基礎練習、バレーボールのサーブ、レシーブ等の基本を教えていただき、午後には、ポジション別にスパイク、レシーブ、トス等の指導をいただいた。 最後に講師と参加チームによる交流試合、講師、指導者や補助員(高校生)を交えてのエキシビジョンマッチを行った。</p> <p><構成団「河北スポーツ少年団バレーボール部」の活動支援> 少子化により部員数が少ない中、活動をするうえでの、ユニホームやボール籠等を整備し、今後の活動に少しでも部員の負担軽減を図る。</p>
事業実施の成果・効果(見込み)	<p>少年少女バレーボール教室では、トップアスリートの指導を受けられる機会を提供し、小学生にバレーボールの楽しさや技術の習得につながるような教室が開催できた。</p> <p>少子化の中で、活動を行ううえで負担が大きいユニホーム作成や備品購入に関し、少しでも部員の保護者の負担を軽減し、長く活動が続くように支援が行えた。</p>

※活用事業が複数ある場合には、事業ごとに作成、又は事業の内訳がわかるように記入すること。

※提出期限までに成果・効果を示すことが困難な場合は、その見込みを記載すること。

様式第12号の3 (第14条関係)

令和5年度寄附金活用収支決算書

【収入】

区 分	金額 (円)	内 訳
支援寄附金	320,000	(第1回交付分)
支援寄附金	88,000	(第2回交付分)
参加費	86,500	バレーボール教室参加費
自己資金	79,380	自己資金
収入 計	573,880	

【支出】

区 分	金額 (円)	内 訳
謝金	248,000	バレーボール教室講師 2人 スタッフ 12人
旅費	41,020	バレーボール教室講師旅費 2人
昼食代 (講師)	7,080	講師昼食代 2人
宿泊費 (講師)	63,100	バレーボール教室講師宿泊費 2人
会場借上費	10,080	
運動消耗品	204,600	ユニホーム、ソックス等 折りたたみ式ボール籠
支出 計	573,880	

※支出区分は、謝金、旅費、印刷製本費、消耗品費など、経理上の区分名で記載すること。